愛知県陶磁美術館・陶芸館やきもの講座「やきものラボ」報告
美術館の中にある陶芸体験施設 陶芸館の可能性 2

A Report of the Serial Workshop"*Yakimono* Lab." at the Studio in Aichi Prefectural Ceramic Museum

岩渕寛
Kan Iwabuchi

はじめに

愛知県陶磁美術館・陶芸館にて、やきもの講座「やきものラボ」を開催した。館の活動方針の中に、「多様な魅力を有する陶磁文化の教育普及活動の展開を図りながら、県民にやきものづくりの体験や芸術文化活動の発表の場を提供し、地域における文化創造の拠点として機能します。」という一文がある。館全体で目指すべき方針ではあるが、中でも「やきものづくりの体験」、「地域における文化創造の拠点」の部分を陶芸館が担う役割は大きい。

陶芸館は「やきものづくりの体験」施設として、開館以来多くの方々にご利用いただいている。現在もやきものを作ってみたいという純粋な思いで来館される方は後を絶たない。しかし、体験の内容に目を向けると、慣例化され、いかに効率よく作品を焼き上げるかに重きが置かれている。体験をする人々は、「飯碗」や「湯呑」といった食器類を意識していることが多いため、希望に応えるという点では理にかなっているが、「地域における文化創造の拠点」としてはたして機能していると言えるのであろうか。

当館には本館や南館、西館といった作品の展示館、古窯館、復元古窯などの野外展示施設、茶の文化を体感できる陶翠庵というように様々な施設が存在する。しかし、現実はそれぞれが独立した活動をしているにすぎない。陶芸館が個々の施設の特徴を活かしながら中心となり館を繋げていく役割を担えるのではないかと考えている。第一歩として、「やきものづくりの体験」を地域の原料に触れるところから始め、原料の精製、制作、焼成、保管、使用、鑑賞というこれまでとは違った目線でとらえた体験を行うとともに、敷地内の施設を担当学芸員と共に巡りながら、やきものづくりの歴史を学び、これからの可能性を参加者と共に考える「地域における文化創造の拠点」として陶芸館を機能させるべく、実験的に開催した企画が、やきもの講座「やきものラボ」である。

1 開催趣旨

参加者がこの地域で得ることができる陶磁器の原材料に直接触れる機会を持つこと、その原料で実際に制作をし、その過程を通してやきものを「より身近に」感じていただくことを目的とする。
やきもの制作に使用する粘土の精土から、焼成までの過程を実験、体験を繰り返しながらできる限り端的に、当館の所蔵作品、陶片資料などと照らし合わせながら解りやすく紹介していく。最終的には完成

したやきものを使用して使う楽しさを実感し、作品の梱包など保管方法なども体験する。

土、釉薬、窯といったように毎月テーマを絞って進行し、全ての講座をやきものが出来上がる過程に伴い一つに繋げ、参加者は一回限りでも、通年でも参加していただけるような仕組みとする。

陶芸指導員、当館学芸員と共に実験、制作そして鑑賞を行い、普段の陶芸館では体験できない踏み込んだカリキュラムを実施。実験結果や制作過程などはその都度webサイトや陶芸館掲示版にて報告する。当館の復元古窯焼成とも連動し、材料は復元古窯焼成で使用するものと同じ原土を使用し、釉薬は緑釉、透明釉、下絵付には鬼板を使い、出来上がった作品は連房式登窯にて焼成を行う。

2 実施内容

第1回 「土」

日　　時　平成28年5月28日（土） 13:00 ～ 16:00

会　　場　陶芸館　古窯館　陶芸館周辺　復元古窯前広場

参加人数　大人13人 中学生以下1人

・陶芸館北側ピロティにて、猿投山を仰ぎ見、古窯館、復元古窯を見学。

・蛙目粘土（愛知陶磁器組合C蛙目）木節粘土（小名田木節）の原土を木槌、麺棒にて粉砕。40目の篩を通し練土とする。また、館敷地内にて土を採取。同様に練土としテストピースを制作。

第2回 「鬼板」やきものの絵具

日　　時　　平成28年6月25日（土） 13:00 ～ 16:00

会　　場　　陶芸館　陶芸館周辺

参加人数　　大人　23人

・鬼板の原鉱を金槌で粉砕。乳鉢、乳棒にて細粉砕後、素焼き素地に鉄絵を行う。

・石灰透明釉を施釉、還元焔で焼成し、資料とした。

・第1回で制作したテストピースに絵付、灰釉を施釉、還元焔、酸化焔で焼成。

第3回 「釉薬」

日　　時　　平成28年7月23日（土）8月27日（土） 13:00 ～ 16:00

会　　場　　陶芸館　陶芸館周辺　復元古窯前広場

参加人数　　大人　17人　中学生以下　2人（7月）

　　大人　17人 （8月）

・織部釉（緑釉）、透明釉を調合、ポットミルを使用し混合粉砕。

・館敷地内の雑木の古枝を焼き、灰を作り水簸。

・復元古窯（薪窯）ドウギマより灰を取出し水簸。

※応募者多数のため、7月、8月の二班に分けて開催した。

第4回 「陶片鑑賞」

日　　時　　平成28年9月24日（土） 13:00 ～ 15:00

会　　場　　陶芸館　古窯館

参加人数　　大人　17 人

・当館学芸員による古窯館の解説。

・当館学芸員による陶片資料の解説（瀬戸の古陶磁）。

・陶片を観察し、スケッチを行った。

・第 1 回から制作したテストピースと陶片の比較を行う。

第 5 回 「つくる」

日　　時　　平成 28 年 10 月 8 日（土）、22 日（土）13:00 ～ 15:00

会　　場　　陶芸館

参加人数　　大人　14 人

・制作、施釉を二日間で行った。

・制作時は、道具を一切使用せずに土の表情を残すように促した。

・第 3 回で採取した 2 種類の灰と砂婆を合わせ、灰釉を調合し施釉。

第 6 回 「窯」

日　　時　　平成 28 年 11 月 5 日（土）13:00 ～ 15:00

会　　場　　復元古窯前広場　古窯館　陶芸館窯場

・復元古窯焼成「窯場トーク」に参加し、古窯館、大窯、連房式登窯の解説を当館学芸員、復元古窯焼成講師が行う。

・電気炉、ガス炉の構造の解説を陶芸指導員が行い、参加者と共に操作を行う。

第 8 回 「やきものをしまう」

日　　時　　平成 28 年 12 月 24 日（土）13:00 ～ 15:00

会　　場　　陶芸館

参加人数　　大人　13 人

・やきものの「木箱」への収納方法の解説を当館学芸員が行う。

・あらかじめ用意した「木箱」に箱書きを行う。

・参加者が持参したやきものを布（うこん）で包み、「木箱」に収め、渋紙を掛け、真田紐で結ぶまでの梱包を行った。

第 9 回 「やきものを使う」

日　　時　　平成 29 年 1 月 21 日（土）13:00 ～ 15:00

会　　場　　陶翠庵

参加人数　　大人　11 人

・参加者が自ら持参した「茶碗」、陶翠庵の所有する茶碗を使用し「喫茶」を行う。

・持参した茶碗を参加者同士で鑑賞しあいながら、そのやきもののエピソードについて語り合う時間を

過ごす。

第10回「鑑賞する」

日　　時　　平成29年2月25日（土）13:00～15:00

会　　場　　南館

参加人数　　大人　10人

・「やきものラボ」で収集した原料などの資料を紹介。南館展示と照らし合わせながら鑑賞を行う。

・参加者個々に、色、形、模様などのテーマを決め鑑賞を行い、南館のワークシートに記入、鑑賞後に発表を促す。

・携帯学習キットを使用し、当館学芸員による解説を行う。

・携帯学習キットを使用することにより、手に取り釉薬の性状や、やきものの肌合いなどの質感を実感した。

3 平成26年度　陶芸館やきもの講座「やきものラボ」を終えて

実験的に開催した「やきものラボ」は、器物や成果物が形として残らない講座であるにもかかわらず、当初の予想とは反する人数の応募があり、驚きを感じる。やきものづくりを体験する施設である陶芸館利用者の中に、制作することだけではなく、もう少し踏み込んだ形でやきもののことを知りたい思う方が存在することに可能性を感じ、今後もその思いに応えていかなければならないと確信している。また、古窯館や南館、陶翠庵など館の様々な施設を利用しながら、学芸員と協力し、陶芸館での陶芸指導員による体験ではできない、今までとは少し違った「やきものづくりの体験」の場を提供する道筋が少し見えてきたように感じる。

少し大きな話ではあるが、「瀬戸」市周辺は、名古屋市などへの通勤圏という立地条件の良さから陶磁器関係の企業跡地の宅地化が進み、その場所でやきものが作られていたことさえ知らない多くの人々が生活を営んでいる。その新たな営みの下には、良質なやきものの原料があり、街にはやきものづくりの記憶が残されている。このことを少しでも知っていただける機会を作り、やきものに興味を持っていただくこと、昔から「瀬戸」で生活をしている人たちのことを理解していただくこと、交流を深めていくことこそがこの土地の、やきものの未来への希望となるのではないだろうか。

「やきものラボ」を開催して、この土地の身近な陶磁器原料に触れ、やきものの出来上がる過程を体験していただくことは、瀬戸という街を知る機会の一つになるのではないかと感じた。陶芸館にはこのことを実践し、体現できる知識と経験がある。「地域における文化創造の拠点」として、陶芸館は無限の可能性を秘めている。